数式処理 *Bulletin of JSSAC(2013)*
Vol. 20, No. 1, pp. 1 - 1

巻頭言

可能性のかけら

— Communications of JSSAC への論文投稿のお願い II —

澤田 浩之*

Communications of JSSAC 編集委員長

「工学分野における数式処理の実用応用への道はまだまだ険しい」と私が数式処理学会誌に書いたのは，2003 年のことである．それから 10 年，さすがに Gröbner base や Quantifier Elimination，近似代数などをフル活用するには至っていないものの，物理モデルシミュレータとして MapleSim が自動車産業で使われ始めるなど，数式処理が一部の研究者や数学マニアのための技術ではなく，多くの可能性を持った基本技術として認知されてきているように感じる．また，教育分野では従来から様々な取り組みが行われていることは，会員の皆さんもご存知の通りである．

数式処理の歴史は数十年，現在の工学分野で利用されている数学理論の多くが何百年も前に発表されたものであることを考えると，数式処理はまだまだ若い研究分野であり，応用研究の余地は非常に大きいとも言える．ただ，基本技術を応用技術，実用技術へと発展させて行くことは手間である．徒労に終わる作業も多い．また，成果として低い評価しか得られないこともあるだろう．現在実用化されている技術にしても，その背後に，様々な研究の積み重ねがあったことは想像に難くない．それらの中には，核となって新しい可能性を切り開いた研究もあれば，それ単体では直接の成果には結びつかなくとも，異なる研究の間の架け橋となり，次への可能性を紡いできた研究が多くあったことも事実だと思う．

編集長としては，Communications of JSSAC が，そのような「可能性のかけら」を受け止める役割を担えれば良いと考えている．

というわけで，皆さん，Communications of JSSAC への積極的な投稿をお願いします．

*cjssac@jssac.org

© 2013 Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation